「カコモンにTRY!」特別版

2020年春入試問題紹介

教科担当者が選ぶ「この1問」

保護者向け総合情報サイト「Z-SQUARE」で好評連載中の「カコモンにTRY!」の特別版として、数ある難関校のなかから中学受験コースの教科担当者が選んだ、差がつく「この1問」をご紹介します。まだこれらの問題が解ける必要はありませんが、この機会に難関中学の入試問題を体験してみてください。

国語担当者が選ぶこの1問

M.O.

灘中学校　1日目　大問六

六　慣用句の中には、共通する漢字を持つものがあります。それを使って（例）のように慣用句を並べた文章を作り、ひらがなの部分は「○」に置きかえました。同様に作った文章の[A]～[F]に入る漢字を答えなさい。ただし、漢字の読みは一回目と二回目で同じとします。

（例）ここから試合会場は「[A]○[B]○先」だ。今日こそはライバルの「[B]○[C]○」でやりたい。彼の実力は「[C]○[D]○○」だが、ぼくだって負けてはいない。

［答え］A 目　B 鼻　C 折　D 紙

（慣用句は「目と鼻の先」「鼻を折る」「折り紙つき」。）

とっさに「[A]食○○[B]」でやりすごしたが、本当は「[B]○○[C]○出○」思いだった。友だちが「[C]○○○○○○煙（けむり）○[D]○○」と追及してくるのをかわすために、「[D]○板○[E]」でごまかしたけれど、うそつきだと思われていないかな。今日のことは「[E]○[F]○」てくれるといいんだけど。

慣用句で使われる共通の漢字を答える問題

意味を丸暗記するのではなくどのような場面で使うのかもおさえよう

文脈に合うよう、空欄に慣用句を当てはめていくことで、慣用句の意味も自然と理解することができる問題です。漢字しりとりなど、ユニークな知識問題を出題する灘中学校らしい出題形式ですが、登場するのは、受験では定番の慣用句ばかりです。まずはクイズ感覚で解き、慣用句に慣れ親しむところから始めましょう。解く際には、問題文を注意深く読むことが大切です。どう考えればいいのか、○に入るのは漢字なのかひらがななのかなどをきちんと把握できれば、ぐっと解きやすくなります。

差がつく! 学習アドバイス

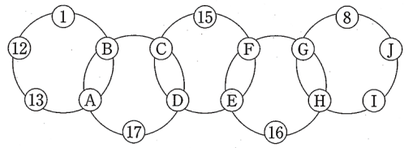
受験において対策必須の慣用句やことわざは、ドリルをひたすら解いて丸暗記、となってしまいがちです。しかし、もともとは日常のできごとを表現するために生まれた言葉ですので、「どのような場面で使えるのか」と合わせて覚えることで、ぐっと身につきやすくなります。日常会話の中で積極的に取り入れたり、覚えるときには例文を作ってみたりして、無理なく定着させていきましょう。

算数担当者が選ぶこの1問

江上 智美

駒場東邦中学校　1　(4)

(4)　下の図は，各円ごとの5つの数の合計が40になるように，1～17の数を一度ずつ使って並べたものです。



①　I＋Jを求めなさい。

②　EよりもFの数が大きいとき，Eの数を求めなさい。

論理力・条件整理力が問われる数の問題

全体を俯瞰して進める力が問われる

条件整理を絡めた、数の問題です。それぞれの記号にあてはまる数が一意には定まらない条件下で考えていく必要があるので、慣れていないと戸惑うかもしれません。「値は決まらないけれど、条件は絞られている」という感覚に慣れるよい訓練になるでしょう。

②では、「求めなさい」と言われている部分に注目しても先に進めません。全体を俯瞰して大局的に進めていく力が問われています。視野を広げるきっかけとして活用いただきたい問題です。

差がつく! 学習アドバイス

本問で使う計算は2桁のたし算・ひき算の範囲に収まるものであり、特別な計算は必要ありません。そのような問題でありながら入試で出題されるということは、学校側が「与えられた計算をこなす力だけではなく、物事を論理的に思考する力があるか」を受験生に問うていることの証とみてよいでしょう。実際、思考力を要求する問題に不慣れなお子さまや、考える習慣が身についていないお子さまですと、まったく歯が立たないことも考えられます。

Z会中学受験コース算数では、4年生の8月で「論理」をテーマとした学習を行い、ロジカルな思考法を学びます。それ以外にも、添削問題などで思考力を養う問題を多く扱い、柔軟な発想力・丁寧な観察力を引き出します。多くの問題に触れ、考える訓練を重ねることで、その先の高度な学習のための土台が築かれていきます。

理科担当者が選ぶこの1問

高安 智子

慶應義塾湘南藤沢中等部　【2】　問1

【2】　図1のように静止しているブランコの板に座って，ひもをたるませないで，はじめの板の真下のA点から1mの点まで動かし，静かに地面から足をはなすとブランコは往復運動しました。

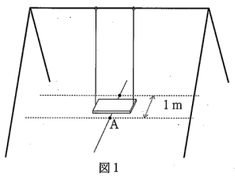
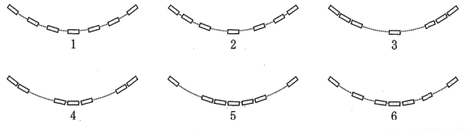


図1

（問1）　一定時間ごとのブランコの板の位置を正しく表している図を次の中から1つ選び，番号で答えなさい。ただし，図はブランコの板を真横から見た位置を表しています。



ブランコの揺れ方を思い出そうふりこの問題

身近な事象と理科を結びつけて考える

理科の入試では、身近なものと理科を結びつけた問題が出題されることがあります。ここでは、ブランコの往復運動についての問題を取り上げました。ブランコは、ふりこを利用した道具です。ふりこについては、Z会中学受験コース理科では4年生11月号で学習しますが、ふりこの知識がなくても、ブランコに乗ったり揺れている様子を見たりしたことがあると思いますので、これまでの体験から考えることができます。まず、選択肢によって板の間隔が広かったり狭かったりすることが何を意味するのかを考えてみましょう。そして、ブランコがどのように揺れていたかを思い出して考えてみるとよいでしょう。

差がつく! 学習アドバイス

今回は、ふりこに関連した問題を取り上げました。ふりこを利用した道具として、ほかには、ふりこ時計やメトロノームなどがありますが、これらも入試で題材にされています。このように、理科の入試では、単に知識を問うだけでなく、理科の知識と身近なものや現象を結びつけて考える問題がよく出題されています。

3・4年生の理科では、基礎的な知識をしっかり固めることと、身のまわりの自然や事象などに興味をもつことが大切です。体験を重視し、自然科学などに関するニュースを見たり、興味をもった事象について調べたりすることをおすすめします。

社会担当者が選ぶこの1問

西田 聡美

桜蔭中学校　I　問7

問7　文中の下線部④のスギの森林を，地形図で表したときに使われる地図記号として適切なものを次の あ～え から1つ選び，記号で答えなさい。

日ごろから地図帳に親しんでおこう地図記号の問題

地図記号は、記号のもとをイメージして覚えよう

中学入試では、地形図からいろいろな情報を読み取る問題がよく出題されます。地形図の読み取りの基本となる地図記号は、記号のもとになったものや由来を調べながら覚えていくとよいでしょう。この問題では、選択肢の地図記号が何を表しているかという知識が必要なのは言うまでもありませんが、「スギ」が広葉樹・針葉樹のどちらなのか、樹木の分類を誤ってしまうと正解できません。スギがイメージできるかがポイントです。

差がつく! 学習アドバイス

3・4年生の社会では、身近な地域の様子を学習します。新学習指導要領では、3年生から地図帳を活用することになりました。低学年のうちから地図帳を広げて、いろいろな発見をしてほしいと思います。「針葉樹林はこの記号」と機械的に覚えるのではなく、どんな樹木が広がる森林なのかをイメージしてみましょう。

Z会中学受験コースでは、3年生4月号の『地図のきまり』の単元で地図記号を取り上げます。6年生では、地形図から情報を読み取る問題を本格的に取り上げ、入試に向けて力をつけていきます。

ここでご紹介した入試問題の解答・解説は、4月23日に保護者向け総合情報サイト「Z-SQUARE」に掲載します。

「Z-SQUARE」へのアクセス方法　●「Z会MyPage　8739ねっと」のトップページより　「Z-SQUARE」アドレス　https://www.zkai.co.jp/saponavi/el/